

3. 防災マップ閲覧方法・配架に関する効果測定

調査結果の概要

テーマ	防災マップ閲覧方法・配架に関する効果測定
担当課	危機管理室 防災課
設問数	8 問
趣旨・目的	<p>本市では、市民の防災意識向上を目的に、令和 4 年にハザードマップと防災啓発資料を掲載した防災マップをリニューアルしました。</p> <p>防災マップは、市民の自発的な行動変容を促すためデジタルの啓発を基本とし、紙媒体は全住戸への配布から市内民間事業者等にご協力いただき配布する方法へ変更しています。</p> <p>今回のアンケートは、防災マップの普及や配布方法の効果を測るために実施し、今後の啓発活動に活用したいと考えています。</p>
調査結果	各設問のページをご覧ください。
調査結果に係る担当課の所見	<ul style="list-style-type: none"> ・問 27 では、防災マップ所有割合は 33.3%でした。 また、問 32 では、防災マップ確認後に災害へ備えた行動を起こした割合が令和 4 年度に比べて 9.7 ポイント増加しました。引き続き防災マップを活用し、災害に備えた具体的かつ自主的な行動を促せるよう啓発活動の拡充を図ります。 ・問 28 では市・区役所での防災マップを入手される方が多く、問 31 では、普段利用する機会の多い場所での配架を希望する回答が多い結果となりました。引き続き危機管理室 X（旧 Twitter）等の電子媒体や広報さかいを活用し、民間事業者と協力した防災マップ配架取組の認知度向上を図ります。 ・問 30 では「平時は電子媒体、災害発生時は紙媒体の方が利用しやすい」との回答が多く、次いで「平時も災害発生時も紙媒体が利用しやすい」との回答が多いことから、紙媒体での利用を希望する方が多いことが分かりました。市民の方の自発的な行動変容を促すため、デジタル媒体と需要の高かった紙媒体を併用して啓発します。

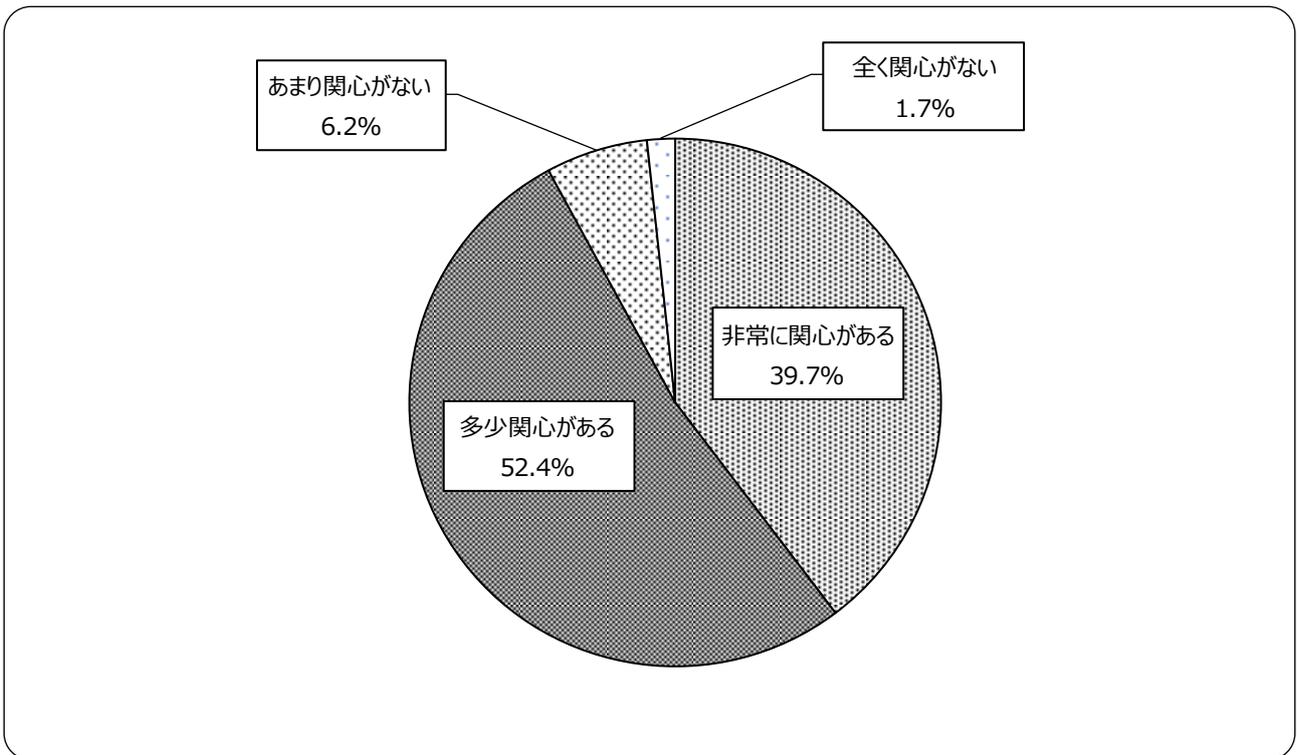
(1) 防災への関心

問 26. 防災に関してどの程度関心がありますか。

【1つ選択】

「非常に関心がある」「多少関心がある」と回答した方の合計が 92.1%となっており、令和 4 年度の 93.0%から減少した。

	選択項目 (n=468)	回答数	構成比
1	非常に関心がある	186	39.7%
2	多少関心がある	245	52.4%
3	あまり関心がない	29	6.2%
4	全く関心がない	8	1.7%
	計 (回答総数)	468	100.0%



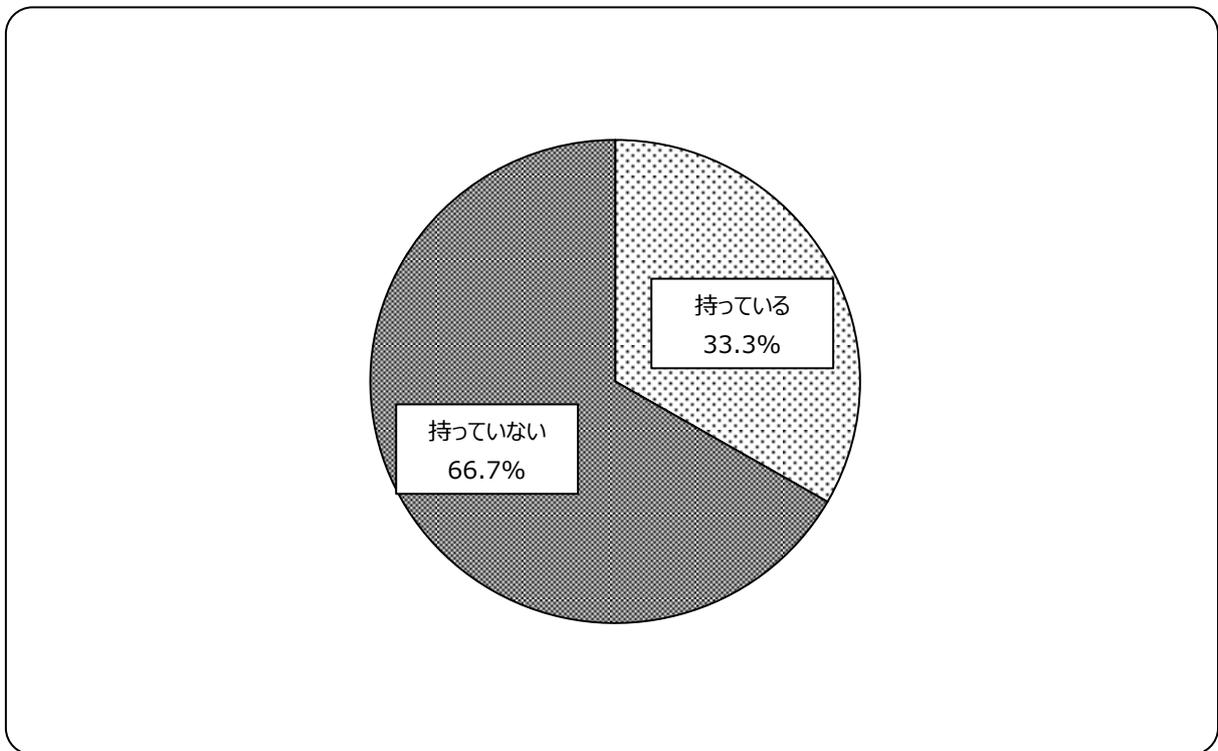
(2) 防災マップ

問 27. 現在、防災マップ（紙媒体または電子媒体でのダウンロード等を含む）を持っていますか。【1つ選択】



「持っている」と回答した方が 33.3%であった。

	選択項目 (n=468)	回答数	構成比
1	持っている	156	33.3%
2	持っていない	312	66.7%
	計 (回答総数)	468	100.0%



問 28. 問 27 で「1 持っている」と回答された方に伺います。

防災マップをどこで入手しましたか。

【複数選択可：いくつでも】

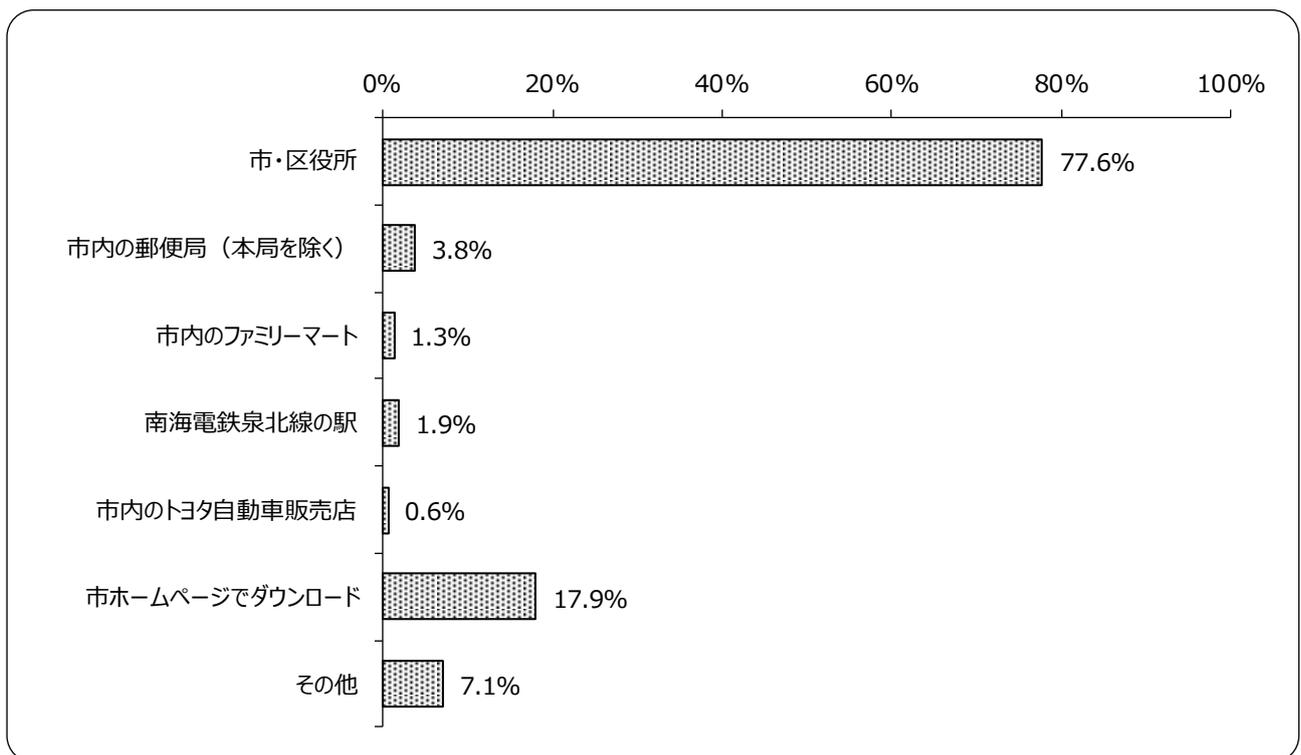
「市・区役所」「市ホームページでダウンロード」と回答した方は、それぞれ 77.6%、17.9%であった。

	選択項目 (n=156)	回答数	回答数/n
1	市・区役所	121	77.6%
2	市内の郵便局 (本局を除く)	6	3.8%
3	市内のファミリーマート	2	1.3%
4	南海電鉄泉北線の駅	3	1.9%
5	市内のトヨタ自動車販売店	1	0.6%
6	市ホームページでダウンロード	28	17.9%
7	その他	11	7.1%

[7 その他]

【主な回答】

- 自治会
- イベント
- 大阪防災アプリ
- 堺市公式 LINE
- 不動産屋



問 29. 問 27 で「1 持っている」と回答された方に伺います。

なぜ、防災マップを入手しようと思いましたか。

【複数選択可：いくつでも】

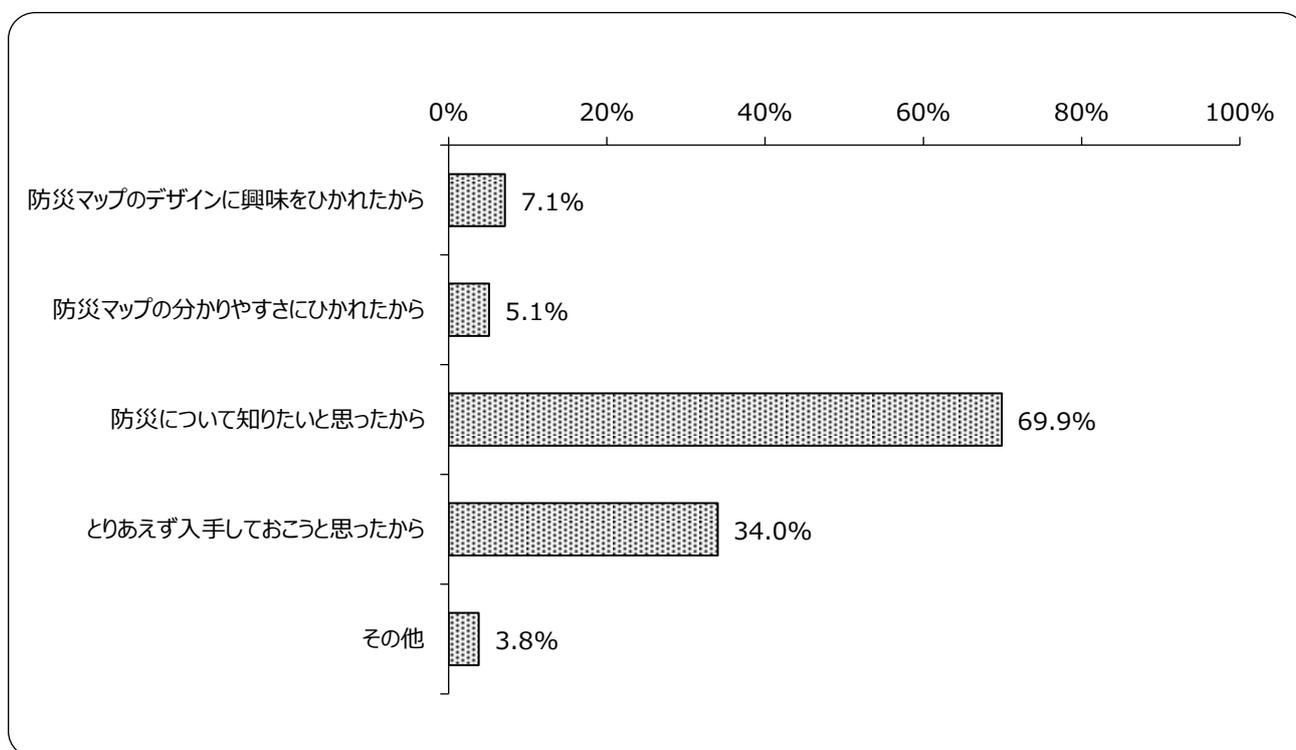
「防災について知りたいと思ったから」と回答した方が 69.9%であった。

	選択項目 (n=156)	回答数	回答数/n
1	防災マップのデザインに興味をひかれたから	11	7.1%
2	防災マップの分かりやすさにひかれたから	8	5.1%
3	防災について知りたいと思ったから	109	69.9%
4	とりあえず入手しておこうと思ったから	53	34.0%
5	その他	6	3.8%

[5 その他]

【主な回答】

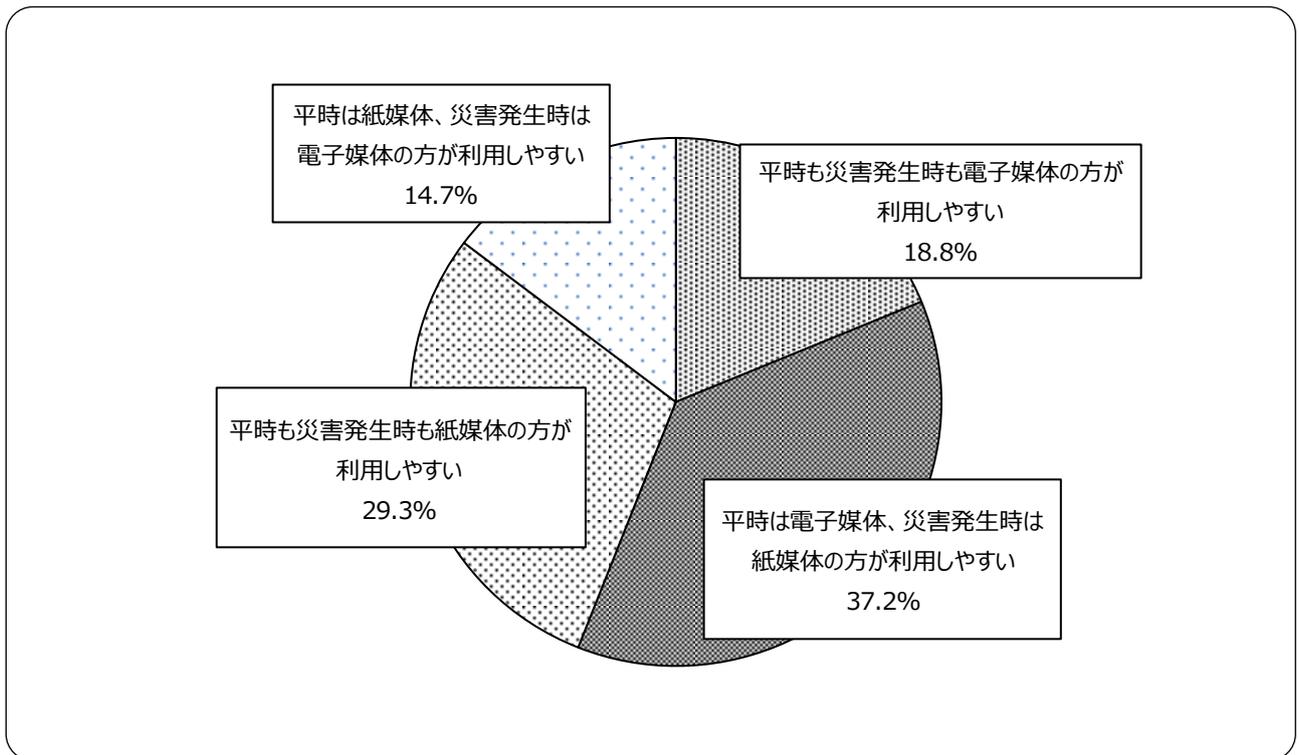
- イベント等で配布されたから
- こどもに障害があるから



問 30. 平時（災害が発生していない時）や災害発生時に防災マップを閲覧する際、電子媒体と紙媒体ではどちらが利用しやすいと思いますか。 【1つ選択】

「平時は電子媒体、災害発生時は紙媒体の方が利用しやすい」と回答した方が最も多く、次いで「平時も災害発生時も紙媒体の方が利用しやすい」であった。

	選択項目 (n=468)	回答数	構成比
1	平時も災害発生時も電子媒体の方が利用しやすい	88	18.8%
2	平時は電子媒体、災害発生時は紙媒体の方が利用しやすい	174	37.2%
3	平時も災害発生時も紙媒体の方が利用しやすい	137	29.3%
4	平時は紙媒体、災害発生時は電子媒体の方が利用しやすい	69	14.7%
	計 (回答総数)	468	100.0%



(3) 防災マップの配架先

問 31. 防災マップの配架先について問 28 の 1 から 6 以外で入手しやすい (したい) と考える場所はどこですか。

【1 つ選択】

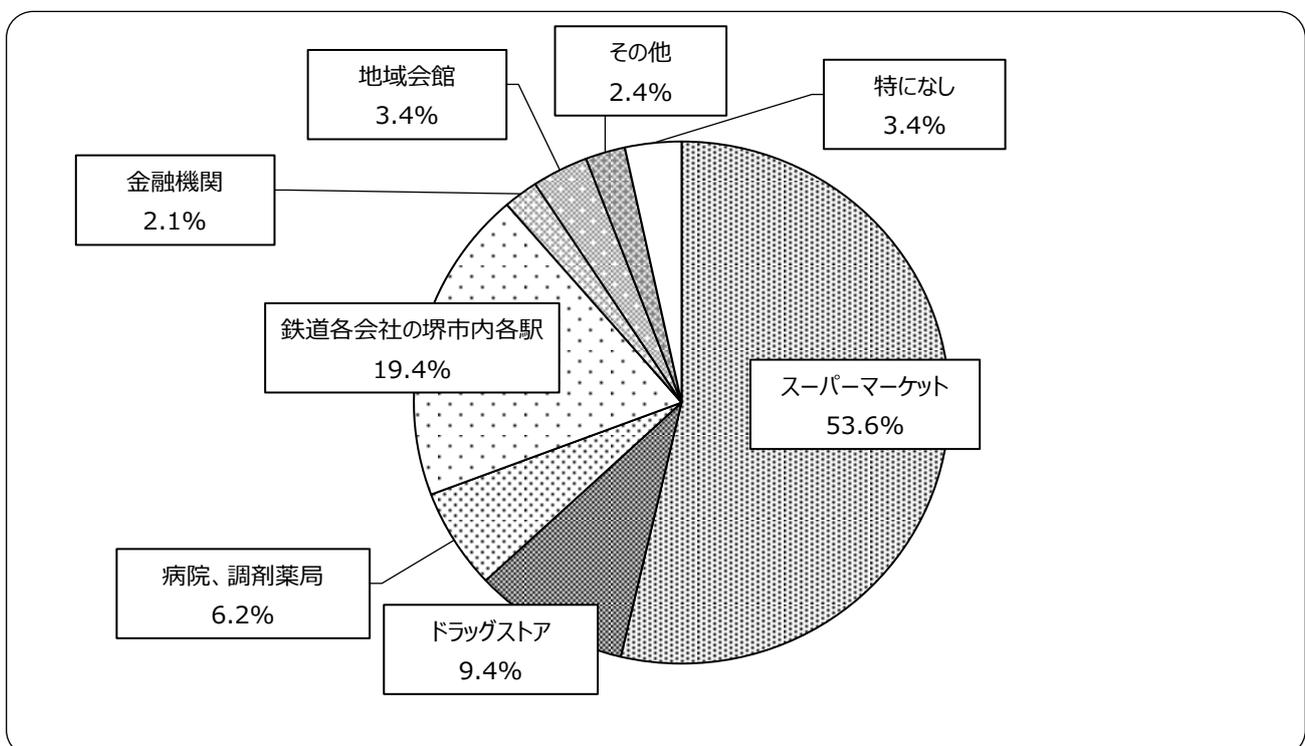
「スーパーマーケット」と回答した方が 53.6%、「鉄道各会社の堺市内各駅」と回答した方が 19.4%であった。

	選択項目 (n=468)	回答数	構成比
1	スーパーマーケット	251	53.6%
2	ドラッグストア	44	9.4%
3	病院、調剤薬局	29	6.2%
4	鉄道各会社の堺市内各駅	91	19.4%
5	金融機関	10	2.1%
6	地域会館	16	3.4%
7	その他	11	2.4%
8	特になし	16	3.4%
	計 (回答総数)	468	100.0%

[7 その他]

【主な回答】

- 各社コンビニエンスストア
- 図書館
- 広報紙への挟み込み等による個別宅配
- 回覧板
- 職場



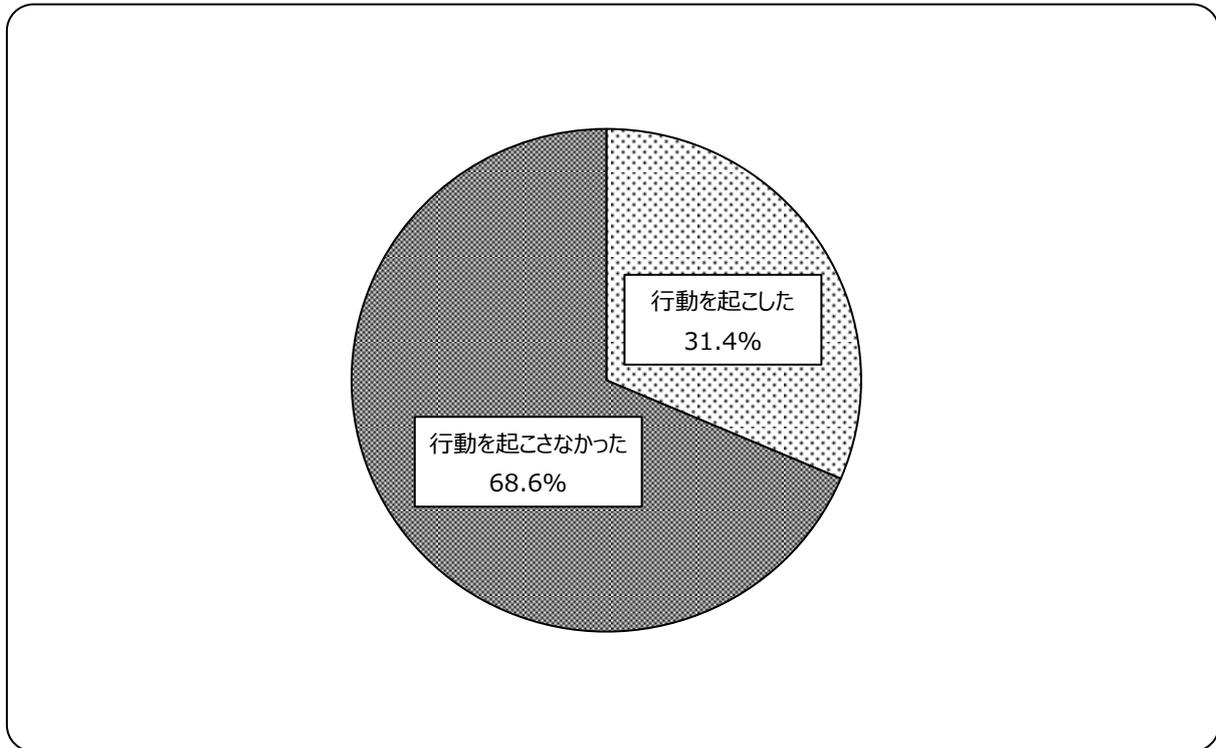
(4) 防災マップの啓発効果

問 32. 防災マップを見て、災害に備えて何か行動を起こしましたか。

【1つ選択】

「行動を起こした」と回答した方が 31.4%となっており、令和 4 年度の 21.7%から 9.7 ポイント増加した。

	選択項目 (n=468)	回答数	構成比
1	行動を起こした	147	31.4%
2	行動を起こさなかった	321	68.6%
	計 (回答総数)	468	100.0%



問 33. 問 32 で「1 行動を起こした」と回答された方に伺います。

災害に備えて、具体的にどのような行動を起こしましたか。

【複数選択可：いくつでも】

「ハザードマップで自宅や職場の位置を確認し災害リスクを把握した」と回答した方は 60.5%であり、令和 4 年度の 48.5%から増加した一方で、「本市公式 SNS や防災情報メールを登録した」と回答した方は 10.9%であり、令和 4 年度の 12.9%と同様低かった。

	選択項目 (n=147)	回答数	回答数/n
1	非常持ち出し品・非常備蓄品を準備した	110	74.8%
2	指定避難場所や安全な場所・建物の位置を確認した	86	58.5%
3	ハザードマップで自宅や職場の位置を確認し災害リスクを把握した	89	60.5%
4	家族との連絡方法・集合場所について話し合った	73	49.7%
5	本市公式 SNS や防災情報メールを登録した	16	10.9%
6	その他	2	1.4%

[6 その他]

【全回答】

- 備蓄品の補充
- 防災に関連するアプリをダウンロードした。

